令和６年第１回東北町議会定例会会議録

令和６年３月５日（火曜日）午前１０時００分開議

○議事日程（第２号）

日程第１　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

○議長（岡山粕男君）　日程第１、一般質問を行います。

一般質問の通告は２名であります。

通告順に発言を許します。

13番、蛯澤正雄議員は、一問一答方式による一般質問です。蛯澤正雄議員の発言を許します。

〔13番　蛯澤正雄君登壇〕

○13番（蛯澤正雄君）　改めておはようございます。13番、蛯澤正雄が一般質問いたします。それでは、早速、初日に町長が町政運営に関する基本方針ということで述べております。その中で質問を、５つほど町長は挙げておりますけれども、その中の１、２、３まで一応質問したいなと考えております。

まず１つ目は、住民力が活きる協働のまちづくりと。地域共生社会のスキームを生かしながら、ワークショップを通じ、計画を自ら策定する取組を行ってまいりますと。去年は、所信表明でも私、質問したことがあります。そういう中で、私が各地区の町内会さんに、どういうふうな計画、やりましたけれども、その辺はちょっと私も意味が分からなくて、今もまたそういうふうな所信、運営の基本方針で挙げてあります。そういう中で、もう一度どういう意味なのか、そこをお答え願いたいと思います。

２番目といたしまして、産業です。持続可能な攻めの産業振興と、これは言葉では非常に耳当たりのいい言葉です。そしてまた、予算額も助成内容を拡充してまいりますとありますが、どの程度なのかお伺いしたいと思います。

それから、３番として、道の駅おがわら湖に特色のある足湯を５年度に予算化したと。私、ちょっと記憶がなくて、あったようです。それはそれといたしまして、６年度設置するような形なので、その内容が５年度に全然、普通は1,000万以上あれば、こういうふうなという計画ないし説明とか、そういうのがあるのですけれども、そういう説明がなかったので、ちょっと記憶になかったなと思います。そういう意味で、それをどういう形で設置するのか、お伺いしたいと思います。

それから、４番として、地域活性化企業人と地域おこし協力隊の受入れ活動状況、どういうふうになっているのかお伺いしたいと思います。

以上です。よろしくお願いします。

○議長（岡山粕男君）　町長。

〔町長　長久保耕治君登壇〕

○町長（長久保耕治君）　それでは、13番、蛯澤正雄議員のご質問にお答えをいたします。

一般質問通告のありました質問事項１の町政運営に関する基本方針についてお答えをいたします。質問要旨の１点目、住民力が活きる協働のまちづくり、地域共生社会のスキームを生かしながら、ワークショップを通じ、計画を自ら策定する取組を行ってまいりますとはどういう意味か伺いますについてでありますが、私が町政運営における政策の目標の一つとして、住民力が活きる協働のまちづくりを掲げております。町民の自主性、自立性を促し、運営されていく全員参加型の協働の町づくりを進める一つとして、地域の住民が参加しやすい、意見を出しやすい、意見が反映されやすい手法により、令和６年度から地域ミニ計画の再編を行いたいと考えております。

平成17年の合併時に、地域の人たちと地域担当職員とが打合せを行い、地域ミニ計画を策定しました。それから約20年が経過し、地域の状況も変化していることから、地域の実情に合う計画の再編が必要だと感じております。町職員が地域に出向き、地域に住む人々とワークショップを通じ、地域のために地域の身近な課題等を共有し、つながり、支え合う地域共生社会を考えながら、新たな地域ミニ計画を作成したい、そういった意味であることをご理解いただければと思います。

次に、質問要旨の２点目、持続可能な攻めの産業振興を掲げ、予算額や助成内容を拡充してまいりますとあるが、どの程度か伺いますについてでありますが、我が町の基幹産業である農林水産業の活性化は町の発展に不可欠であると考えており、生産者の声も踏まえながら、それぞれの分野において必要な対策を講じてまいりたいと考えております。

具体的には、まず農業については、昨今の大きな課題である肥料価格の高騰や環境への負荷低減、相次ぐ自然災害の発生に対応するため、堆肥や緑肥の購入、土壌診断の実施を後押しするとともに、様々なリスクに対し自ら備える農業者を後押しするため、収入保険への加入を促進してまいります。

また、従前からの課題である担い手の高齢化や減少に伴う労働力不足に対しては、作業機械や資材の購入に対する助成について、機械価格の高騰なども踏まえ、予算額は2.7倍に増額、補助上限額も引き上げるとともに、自動操舵とドローンを導入する場合には、補助率を３分の１から２分の１に引き上げて支援したいと考えております。

次に、畜産・酪農については、先ほど申し上げた作業機械や資材の導入支援に加え、飼料価格の高騰を踏まえ、草地の更新に対する助成について補助率を４分の１から３分の１に引き上げるほか、牛肉や牛乳の消費拡大についても引き続き取り組んでまいります。

さらに、漁業については、懸案である小川原湖の環境改善に向けて、国、県への働きかけはもちろん、町としても清掃活動の実施や小川原湖産食材の資源回復、ＰＲ、顎口虫被害への対応など、小川原湖に関する幅広い取組を行い、流域住民の認知度向上、意識の高場を図ってまいります。

こうした施策を実施しながら、本町の１次産業を社会情勢や自然環境の変化にも対応した持続可能な産業へと転換してまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

次に、質問要旨の３点目、道の駅おがわら湖ににぎわいのある、特色のある足湯など、足湯を６年度設置する予定なのかについてでありますが、令和６年度は町制施行20周年記念に向け、道の駅おがわら湖ににぎわいのある、特色のある足湯を設置していきたいと考えております。また、昨年の12月19日に、大鰐町のおもてなし足湯を視察し、設備などの見学及び意見交換を行い、その中

で様々なアドバイスをいただいております。こうしたあらゆるコンセプトの中で、お客様が気軽に温泉気分を楽しめる場所、ぜひ立ち寄っていただきたいスポットとして、いで湯の里　東北町をＰＲしてまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

次に、質問要旨の４点目、地域活性化企業人と地域おこし協力隊の受け入れている活動状況を伺いますについてでありますが、地域活性化企業人は、現在株式会社ＲＣＧより９月末から１名の社員が企画課に所属しながら、企業での知見やノウハウを生かし、様々な分野において積極的に活動しております。

観光コンテンツの創出では、ふれあい村の改善をメインとしたふれあい村ワークショップを立ち上げ、若手町職員や商工会青年部、観光協会、商工会、株式会社おがわら湖などの関係機関でのワークショップを開催し、ふれあい村の改善計画を進めていく予定であります。そこには、企業版ふるさと納税などの活用も想定しております。

また、道の駅おがわら湖に予定しております足湯についても、いろいろなアドバイス、アイデアをいただいております。現在、そのアイデアを生かしながら事業を進めている状況です。

加えて、３月17日開催のミルクバトルという牛乳消費拡大の事業については、企業人からの提案であり、このイベントの中心として活動しております。町の魅力発信、価値向上として特産の長いもの新規取引の提案を地元の農協に提案し、現在商談中と聞いており、成立すれば地域振興に大きく貢献できるものと思っております。

次に、地域おこし協力隊については、採用がまだできていない状況であります。協力隊の募集は、令和４年11月から開始し、町ホームページや民間のマッチングサイトに掲載しておりましたが、採用に結びついていない状況でありました。そこで、現在は採用に向けて、あおもり創生パートナーズ株式会社に協力隊募集業務を委託し、人材ネットワークに登録している人材とのマッチングによる募集を行っております。現在、数名の方と面談中であると報告を受けておりますので、採用に結びつけられればと思っております。

以上、答弁といたします。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　それでは、１問目の住民力が活きる協働のまちづくりについて、再度質問いたします。この中で、青森県とパートナーシップによる地域共生社会のスキーム、その枠をつくって、前回は保戸沢ですか、これに1,000万の補助事業があるということで聞いておりました。それはそれとして、課長と打合せのとき、それがモデルで町内に広げるのかという話、前にも町長に言ったら違うと、そこだはそこだと言ったのですけれども、意味が分からないのです、私。

　それから、もう一つ、地域の持続的発展のため、計画を自ら策定する取組を行ってまいります。前は行わせると言ったのだけれども、これどういう意味なのかな。この２点を、私、ちょっと意味が分からないので、教えていただきたい。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員にお願いします。あなた一問一答なので、今２点の質問を求めましたけれども、ここは……

○13番（蛯澤正雄君）　だって、この中の一つ。

○議長（岡山粕男君）　そういうのではなくて、この項目について１個ずつの質問ですので。

○13番（蛯澤正雄君）　分かりました。先に……

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員、答弁させます。一問一答ですから、１つずつでお願いしたいということですので。

○13番（蛯澤正雄君）　住民力が活きる協働のまちづくりの中の、この質問の中の、ここに町長がちゃんと書いてあるべ。これ１つの問題だべ。別に離れた話ししているわけではない。

○議長（岡山粕男君）　項目１つずつで、その中で１問ずつですから。

　ここまで、町長。

○町長（長久保耕治君）　蛯澤議員にお答えをいたします。

　先ほど蛯澤議員、保戸沢のモデルは違うのだというお話しされていましたが、まさに、ちょっと誤解があると思いますが、保戸沢を一つのモデルとして地域共生社会の取組を進めていくと、そういったスキームを生かして、令和６年度は新たな新地域ミニ計画を策定するということで先ほど答弁をさせていただきましたので、ご理解を賜りたいと思います。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　保戸沢を指定して、県の補助を受けながら、もらったか、もらわないか、それは分からないのだけれども、今町長がそれをモデルにして来年度ですか、ミニ計画をやるという話でしょう、地域の。そうでしょう。見直しというのは、それをモデルにして、いいか悪いかやってみて、どの程度かという話でしょう。いや、要望を聞くのではなくて、何か後ろでしゃべっているけれども、それは気にしないようにするからあれです。何か話が、私、ぴんとこないな。やっぱりそういうモデルをやった、そのモデルを東北町の来年度の地域のための見直しなり、いい点、悪い点、それをやるということでしょう、今の答弁は。関係ないと前は言いましたよね。ただ話を聞いていいというものではないのだ。そこをちゃんと答えて。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　まず、蛯澤議員との誤解があると思うのですが、関係ないとは言っていないです。地域共生社会の部分の中で、まず県からのそういった補助事業がありましたので、保戸沢地区がそれに手挙げをしてくれました。その保戸沢地区をモデルにして、県とともに、いわゆる地域共生社会の一つの形をつくるということで、今回はそういった形で町の職員も一緒になって勉強会を進めていき、保戸沢地区ではそういった部分で、自分たちが持続可能な地域社会をつくるために、今回一つの例だと除雪隊を結成したということがありました。様々なスキームがあったのですけれども、そういう部分の中で、先ほども最初の答弁にもありましたように、そういったスキームを今度は地域ミニ計画、平成17年からほとんど変わってなくて、これは所信表明のほうでも話をさせていただいたのですが、例えば地域ミニ計画のみで収まらないハード事業ばかりがほとんど残ってしまったので、平成17年のときにはあまり想定し得なかった様々な地域をこれから存続させるための問題が出てきていると思いますので、そういったことをもう一度洗い出して、今回……

〔何事か言う人あり〕

○町長（長久保耕治君）　すみません。ちょっと私、話長いものですから。保戸沢のモデルをうまく活用しながら、職員とともにまた新たな地域ミニ計画を策定してまいりたいという、そういった流れで進めたいと思っておりますので、

ご理解を賜りたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　町長にお願いします。簡略に答弁をお願いします。

蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　次は、町長にお伺いしたいのは、この中で、地域が持続的発展のため、計画を自ら策定することを取組させる。これ町内会なのか、地域任意団体なのか、それは分かりませんけれども、この自ら策定を取り組ませるという、具体的に何なの。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　お答えをいたします。

これは、平成17年の合併時に地域ミニ計画をつくられたと思います。その際は、各地域でいろいろ話合いをしながら１つまとめたものを町のほうでお預かりして、それに対して様々進めていったと思います。その中には、各町職員が担当に入って、張りつきながらつくっていったと思いますが、それにプラスアルファして地域共生社会ということで、皆さんから再度そういった形で自分の町内会、地域にある問題をまず顕在化させることであったり、また自分たちが思い描くこれからの地域の形もあると思います。そういったものをしっかり洗い出していただきながら、それを洗い出して、しっかりしたものにしていくのをワークショップというふうに表現しているのですが、そのワークショップをつくらせて、新たに皆さんで討論していただいて、新たな計画を策定するということでございます。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　町長、ワークショップも、職員が行ってワークショップをやるというのだけれども、住民主体の話合い、合併時は何百種類、何百項目という要望がありました。それ一つ一つできるわけではないのだけれども、それをミニ計画としてやるということでやったのだけれども、今年ミニ計画をなくしたみたいですけれども。それこそワークショップ、職員が行って皆さんの話を聞いて、それをまとめてやるのか。町長自身がワークショップをどうするかという。何ぼボランティア、今保戸沢でやるといったって、毎日やれば油代

が欲しい、何が欲しいとボランティアだかされて、独り親とか、そういうような福祉関係、様々やっているのです。それに漏れたものをやると、保戸沢でやるにしても何にしても、そういうのに対してはやっぱり予算をつけなければならないのです。町長は、予算をつけてそれをやらせるつもりなのかな、それとも話を聞いただけかな。そこを答えてください。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　お答えをいたします。

まず最初に、ミニ計画をなくしたというふうな話がありましたが、ミニ計画はなくしていませんので、議案書のほうをしっかりご確認をいただければと思います。それをちょっと付け加えておきます。

その上で、今いろいろお話がありましたけれども、ワークショップということの捉え方を、何か町がお店を出すような感じと勘違いしているのではないかなと思うのですが、いわゆるワークショップというのは各地域で、コミュニティーというか会合のことです。

○町長（長久保耕治君）　いや、会合をやると、様々な問題が出てくると思います。その問題を自分たちでどういうふうに解決するか策定して、それで進めていくということです。そういうふうにして、自助、共助の考え方で進めていくと。そういった中で、どうしても町の力を借りなくてはいけない部分が出てきた場合は町がいろいろそういうのを手助けするのですが、今回の保戸沢の例においても保戸沢の人たちから、例えば自分たちが除雪をやるから油代出してくれとか、そういった話はないわけで、今議員がおっしゃっているような形ではなくて、自分たちが自分たちで助け合って、また今そういうのは福祉協議会がやっているというふうな話もありましたけれども、社会福祉協議会においても、独り暮らしの除雪に来てくれるいわゆるアルバイトの方々が、やはり高齢化であったり、年々人口減少で減っているということで、社会福祉協議会でいろいろ回り切れない、そういった問題が様々あるのです。ですので、自分たちの地域は自分たちで解決をすると、そういったことから始めていくということですので、そこをご理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　町長、町内会は何のためにあるのですか。町内会では、ちゃんとそういうのをやっています、話合いを。役員会であれ総会であれ、任意団体を指して言っているのかな。町内会はちゃんと話合いしています。それから、独り暮らしは福祉協議会なり、そういうのでちゃんと見守りということでいろいろ援助出しているでしょう。本当に役場でそういうのをやろうとしたら、手の届かない細いところ、いろんなところがあるかもしれないけれども、その辺がちょっと私は意味が分からない。何のためにわざわざ職員が行ってワークショップやるの。町内会にもっと働きかけたらいいでしょう。町内会では何のために話しするの。あなた方職員が行って、町内で人をいっぱい集めて、何の問題がありますかと。これをやるとしたら、やっぱり基本は町内会です。今それを、ちょっと私はここは意味が分からない、話合いの中で。これは、やっても切りがないので、ここで第１問目は終わります。

２問目に入ります。２問目ですけれども、町長は農業に関してプロであるし、農業者でもあります。今現在農業は、農業に限らず高齢化、人手不足、タクシーだって今働き方改革で運転手が足りない。これはどこにも同じです。私、町長の基本方針を読みまして、本当に時代はそれを要望して、そういう補助、これは農業者、商業者のために出さなければならない、当然です。ただ、この中で、若い方々が就労に就く、漁業であれ、酪農であれ、畜産であれ、新しい考えの魅力のある農業の方針というのが出ていないのです。前に言ったとおり、私より知っていると思うけれども、先般テレビで、土木と言えば失礼ですけれども、そういうのが50代の、ブルとかタイヤショベル、５年の中でＩＴを使って、ＧＰＳを使って、全部設置からやっているのです。今そういう時代に変わろうとしている。

農業もそれに変わらなければならないのです。農業だって300坪の、テレビで葉物、今根菜類にも、根物も今それをやっているのです。水耕栽培まで、半分の水耕とか。それを年中やるということです。農薬を使わない。成長もコントロールできると、そういうふうな農業をこの間テレビでやっていました。農家の方が企業と組んで、何億らしいけれども、でも国も、農業基金がそういうのを９割まで補助しますよと。そこまでやれとは言わないのですけれども、それぐらい今企業が農業法人に60％まで出資できるという時代になっているので

す。先般テレビで。そういうのが全然載ってきていないの。企業に対して半分以上出すよと、今国会通るのです、それが。やはり私は、持続可能な攻めの産業振興と言ったらこのぐらい、大変な時期で、特に畜産は今こそ安い時期なのです、テレビを見ると。子牛が安い、何が安いと。分かりました。では、そういう新しい、この中に予算があるかないか、それを聞きたい。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　蛯澤議員にお答えをいたします。

蛯澤議員が今いろいろと教えていただいた部分の予算取りというふうな形ですと、ありませんということです。例えば水耕栽培であったりとか、そういったものだと思います。テレビとかネットで恐らく調べているのでしょう。

私が以前からお話をさせていただいているのは、この地域の農業は本当に日本に誇れる農業を展開していると、その中で本当に若い人たちも育って、しっかり先進的な経営を行っていると思います。それは、ＤＸに関しても、経営そのものに対してもそうです。そういう皆さんでも、なかなかこれからの農業を持続可能にしていくのは難しいという中で、常に農家の皆さん、諸先輩方、若い人を含めて、皆さんの声に耳を傾けた中で、今般予算にそれを反映させていただいたところであります。彼らが例えばそういった工場みたいなところを求めていたり、物すごく変わったものを求めているというのであるならば、それはそれとして受け止めますが、やはり現状に即したもの、そういったものを考えたときの予算です。全然人の話とか農家の話を聞かないで予算をつくっているわけではありませんし、畜産、酪農、また農業関係でも、かゆいところに手が届く政策であるというふうなお話もいただいているところです。今は、本当に物価が高騰、機械の価格も高騰していると思います。やはり大きな夢も見ながら、足元をしっかり固めていくという農業者の声に応えたような政策として、今回はご提案をさせていただいていることをご理解願いたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　インターネットでも結構調べたりしていますけれども、今トマトは半水耕半土なのです。そういうふうな今温度調整で農家の方がトマトの栽培をしているのです、味つけにしても。肥料によって甘さが、糖度が出

てくると。だから、みんな今トマトをやるには、糖度の計量といいますか、そういうのをたなってやっているのです。もうそういう時代です。だから、それを、やはり町として農協とそういうふうにいかに……確かに町長はそれこそうちの、東北町の野菜はおいしい、肉がおいしいと言う。どこの県だってトップセールス、トップのあれをやっています。では、そこで東北町として、町長は農業政策としてそういう考えがあるのか、この中で予算を見るとないので、その辺ちょっとお伺いしたい。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　お答えをいたします。

まさに施政方針演説の文書を皆さんにお渡ししたと思うのですが、それをしっかり熟読していただいて、分からない語彙を調べていただければ、その思いは伝わっているのではないかなと思いますが、まずしっかり物価高騰であったり、いわゆる労働力不足に対応できることをしっかり町として対応していただく、そしてその対応の仕方というのは農家の声を反映させたものになっていると思っています。当然そういった入り口の戦略もさることながら、出口戦略をやはり進めていかなくてはならないと。

人口が自然減していっています。当然国内の消費量は、黙っていても減っていく。生産量も減っていくかもしれないけれども、消費量のほうがまさに加速度的に減っていっている現状の中では、さきにお話しさせていただきましたが、いろいろ輸出関連も視野に入れながら、出口戦略もしっかり、トップセールスも含めてやっていくということがやっぱり大事だと思います。やはり東北町の農業を守るということは、青森県の農業を守り、日本国の農業を守ることだと思っています。そういったことを踏まえて、一人一人がしっかり動いていくことこそが持続可能な農業につながっていき、日本のこの国を、東北町を守ることだと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　農業を抜き、これから本当に、私はなぜこういうふうに言っているかというと、先般出生を聞いたの。そうしたら、令和２年度は740人、３年度は５人少ないのですけれども、令和３年度と４年度を比べると、45人子

供の出生が減っているのです。令和４年度、令和５年度、４月１日現在を入れると50人減っているのです。これを考えると、農業政策にしろ、いろんなことにしても、本当に東北町でなければならないような、農業にしても何にしても、そういう政策をしなければならない。酪農は、私はこのままいけば、町長は確かにおいしい、おいしいと宣伝に歩いているけれども、このままで生き残れるのかな。農業だって、大農家は生き残れるのかなと思います。国でもそうです。10年早く子供の人口が減っているという話なのです。それに対して、やっぱり少しでも、東北町の現状は、野菜をいっぱいやっています、それで満足していられないと思います。やっぱりこの中で、試行的にでもやるべきではないですか。それどう思いますか。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　蛯澤議員にお答えをしますが、拡大解釈でいいのですか。

○13番（蛯澤正雄君）　人口が減っているから、大変でしょうということなのです。

○町長（長久保耕治君）　それは、食べる人が減るということですか。

○議長（岡山粕男君）　町長、蛯澤議員、さっきから３回ぐらい聞いているけれども、同じようなことを聞いているのだけれども、予算を、こういうふうなのを取っていると項目を説明したほうが理解されやすいのかなと。その辺できないか。

○町長（長久保耕治君）　お答えをいたします。

あした予算委員会がありますので、そちらのほうでつまびらかに、またご質問いただければと思いますし、あしたの予算委員会でしっかり項目を見ていただければ、ああ、こういうふうなことに力を入れてきているのだなということがご理解いただけるのではないかなと思っております。

いずれにせよインターネットやテレビで放映されていることが全てこの地域に当てはまっているかどうかというのは、正直その判断というのは農家おのおのがすると思います。私もそういった部分において、この先進地で農業をやられている皆さんの声にしっかり耳を傾けることが行政として正しい農業政策をやるものであるというふうに考えております。そういった中で、今回はこうい

った予算に対して、こういうふうに反映をさせていただいたということはご理解を賜りたいと存じます。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　分かりました。予算にはないということ、私はそう見ていましたので。

それからもう一つ、町長は生産者、そういう方々の話を聞いてやるのだと。私はそうではないと思っています。そこの違いだけ言っておきます。行政はこれで満足することなく、東北町のいろんな行政を、業界を引っ張っていくと、やっぱり外に向かってやっていくというのが私の考えですので、それだけ一応今言っておきます。

では、次に移ります。次は３番です。道の駅おがわら湖に足湯を造る。何周年だか分からないけれども、これは総額どのぐらいかかるのかな。

○議長（岡山粕男君）　建設課長。

○建設課長（附田誠吾君）　お答えさせていただきます。

委託費込みで3,000万程度と考えております。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　先般打合せで、足と手とペットの、それはこの間の控室の話だから、話題にならないと思いますけれども、でも足湯とかそういうのは3,000万もかけてやる価値があるのかな。一般の町民から考えたら、3,000万をもっと別なほうに使ったほうがいいのではないかなという考えだよ。式典でいいのではないですか。それでもやろうとするのかな。それによってどのぐらいの経済効果が出るのかな。そこを聞きたい、町長から。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　経済効果ということになると、足湯というのはあくまでも、いわゆる呼び水という形になりますので、道の駅周辺で新たな観光コンテンツをもとにして様々な集客を図ろうと、コロナも落ち着きましたし。そういう形で考えたときに、やはり足湯というのは一つの訪れるためのコンテンツになり得ますし、いつも話をさせていただいているのですが、当地域、本当に

いで湯の里、私もいつも来てくれるお客さんにアピールしているのですが、どこに行っても源泉が流れて、様々な種類のお湯が楽しめますよと。そういう中で、まさに一つの象徴として足湯を活用させていただければと思っております。

また、その3,000万という金額についても、全部を合わせた概算の金額でありますので、ご理解を賜りたいと思います。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　町長、この苦しい時代に3,000万もかけて足湯を造って、よその方々が来て、ただで入ると思うけれども、やはりこういう時代で観光に、それにもう一つは東北町は、十和田湖とかそういうような観光地ではないのです。全国に知れ渡った有名なところ、そこさえも今廃れてきているのです。私は無駄な投資だと思います。それだったら、もっと産業、市川さんが言うとおり、第１子から子供にあげたほうがいいのではないですか。そういう面で再考する考えはないですか。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　お答えをいたします。

今蛯澤議員から、観光に力を入れても廃れるような話がありましたが、私は東北町の観光振興というのは物すごく集客のために必要だと思っておりますし、そういう形の中でいで湯の里、それを代表するいろいろな象徴になるものをつくる部分で、町が20周年を迎えます。あの20年前に議員だった皆さんもいらっしゃると思います。いろんな思いでこの町、東北町を始めたわけです。そういった中で、これからも東北町、こういった観光にも力を入れながら、農業にも力を入れながら、そういった形で進んでいくのだということをＰＲする意味でも、今回この足湯を造らせていただきますことをご理解願いたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　どういうふうにしてこれからつくるのだか分からないのだけれども、一般町民から考えると、かけ離れた事業だなと思います。町民から聞くと、要らないのではないかという人が多いと思います。

次の質問に行きます。地域活性化企業人、これ町長が前に、ＲＣＧですか、ここを通じて500万円ほど寄附もらったと。全協の中で、町長はどこに行って

も、何回陳情に行って何してもお金にならない、ここは工夫してもらえると。それで、これから観光業なり、そういうのをきちんとやってもらえるということで、去年は500万だったかな、忘れたけれども、いずれにしてもこの企業人にお金をやって、それで計画を立てるのだと。それで、その中で、通告書で具体的なことを出したのだけれども、この方は今、週に何日来て仕事しているのかな。東北町に関した事務なり、そういうふうなことをやっているのかな。教えてください。

○議長（岡山粕男君）　企画課長。

○企画課長（福村　誠君）　お答えいたします。

こちらの企業人のほう、決まりがありまして、１か月の半分以上勤務、役場のほうは20日ですので、10日出ることとなってございます。ですので、週に３日出る日もあれば、２日出る日もありますし、仕事の内容によってその辺を調整して勤務してございます。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　令和５年度で、この方が来て、どういう事業を計画並びに実施したのかな。それを短くお願いします。

○議長（岡山粕男君）　企画課長。

○企画課長（福村　誠君）　お答えいたします。

来て半年でございますけれども、先ほど町長の答弁にもございましたとおり、地域のふれあい村、そういった関係の打合せとか、そういったことでいろいろ内部横断的に事業を進めておりますし、加えて先ほども言ったとおり、今３月17日にミルバトということでございます。その企画のほうのイベントもしてございますし、また繰り返しになりますけれども、長いものほうの新規取引ということでも、地元の農協さんのほうにもいろいろと働きかけて、精力的に活動しているということでございます。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　分かりました。まだそんなに結果が出ていないのですけれども。それで、来年度、また500万ほどかけてやっているみたいですけれど

も、この企業人の、ＲＣＧを通して、町長は前に寄附をいただけるような、新聞にもあったのですけれども、寄附をするような話、新聞にも載っておりましたけれども、来年度もそういう寄附をもらう、寄附をもらうと言えば変な話ですけれども、そういう予定はあるのかな。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　お答えをいたします。

まず、ＲＣＧが寄附をしているわけではなくて、ＲＣＧはその仲介役で、寄附している会社は別ですので、まずそこはお間違いがないように。また、Ｒ６年度のお話、今ちょっと聞かれたので、Ｒ６年度の部分まではちょっとまだ分かりませんが……

○町長（長久保耕治君）　３月に２社からご寄附をいただく予定で、３月の下旬に感謝状の贈呈をしに関東のほうに行く予定でございます。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤委員。

○13番（蛯澤正雄君）　分かりました。どの程度だか分かりませんけれども。

あと次に、地域おこし協力隊、令和５年度の予算の中では全てかな、ゼロ、減額ですよね。来年度は、まだまだ予算を持っているわけです。この地域おこし協力隊の姿勢といいますか、町長は募集して、得意な人、様々あると思いますけれども、合わない、合わないと、どういうふうに合わなくて募集してもゼロなのかな。そこをお伺いしたい。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　蛯澤議員にお答えをいたします。

当初地域おこし協力隊は、町の特産品を使ったチーズなど、そういった乳製品のいわゆる生産、またＰＲということで、ある程度限定的な形で募集をいたしましたが、その理由もありまして、今まで地域おこし協力隊がミスマッチになってしまう原因が、実際に募集要項と、来てやっていることが違うではないかということで離れていっている部分が多いというふうに思われましたので、そういったミスマッチがないようにと限定をさせていただき募集をしたのですが、やはりそういった限定、逆にハードルが高いというふうに捉えられてしまって、なかなかそういった部分が見つからなかったというふうに伺っておりま

す。

ですので、今回は、先ほどの答弁でもお話をさせていただきましたけれども、あおもり創生パートナーズ株式会社さんに協力隊を委託して、人材ネットワークに登録している方々に広く周知をしているという方法を行っております。また、募集要項もチーズの生産、ＰＲだけのみならず、町の観光コンテンツであったり、そういったものもＰＲできるようなという形に、いわゆる募集の要項を少し緩めた結果、現在数名の方々が興味を示して面談をしているというふうな報告も伺っております。そういった意味で、前進できるものというふうに考えておりますので、ご理解賜りたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　分かりました。令和５年度は途中で、お試し協力隊だか、予算を持って私に言われましたよね、12月に。あと４か月もないのに、何でこんな予算取るのよと。ないでしょう、今。これは失政ですよ、全部ゼロですから。来年度のこの予算書を見てください。協力隊に何ぼ取っていますか。補助があるかもしれないけれども。そこが私は、募集要項もあるかもしれないけれども、やっぱりそこは町そのものの姿勢がきちっとしていないから、募集した人たちが断ったり、来なかったり、魅力がなかったと思います。令和５年度は、本当に私は失政だと思います。私に言われても、お試しに100万だか何ぼ予算取ったでしょう。来年度、こういうふうゼロ、ゼロだったら、町長はどういうふうにするつもりですか。もうやめますか、それともまだ継続しますか。６年度、今募集してみて、途中でなかったら、どういうふうにしますか。そこをお伺いします。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　お答えをいたします。

このお試し地域おこし協力隊に対しては、ちょっと誤解があるのではないかなと思っております。そもそも地域おこし協力隊にお試し期間がなく、例えばしっかり私どもとしても、なかなかハードルが高い募集要項の中で、やはりちょっとお試し期間を設けてやったほうが、よりなじんで契約に結びつけるのではないか。なおかつ、たまたま冬の時期で、今年は雪が少なかったのですが、

例えば春とか夏に募集に来て、冬になってみたらやっぱりこんな地域に来るのではなかったと。そういったこともないように、あえてお試し期間を設定して、そういった形の中でお試し期間を設けたほうがより当町を選択する気持ちを固めてもらえると思って今回予算化しました。確かに募集した方々は、今回、年度内はありませんでしたけれども、数名の方と面談中であるということは、やはりそういったお試しをするということ、またそれのハードルを少し下げたということ、そういったことの評価の部分で数名の方々が来ていらっしゃると思います。予算が使われなかったから失策だというのは、またちょっと私は違う認識であると思いますし、今後も地域おこし協力隊を募集して、そういった方々に協力してもらって、町おこしを進めてまいりたいと思いますので、ご理解願いたいと思います。

○議長（岡山粕男君）　蛯澤議員。

○13番（蛯澤正雄君）　いずれにしてもお試しというのは、それは来てどうのこうの、当然あった場合はそれはそれとして、お試しでやるということでいいのですけれども、ただそれを募集したけれども、ないということは、５年度はないということは現実だっきゃ。６年度はお試しで、それでやるかもしれないのだけれども、ただ私は予算として盛るということは、ある程度やはりそういう行政としての責任があるわけです。その辺を私は全然感じていないと思う。来年度を見れば、あした質問するのだけれども、総額的には1,000万ぐらいではなかったかな、全部入れて。もう一つは、あるのだけれども、そういう中で、私は本当に今回の地域おこし協力隊に対しては、令和５年度は本当に失政だったなと、そういうふうに思っております。

これで一応一般質問を終わります。どうもありがとうございます。

○議長（岡山粕男君）　これで13番、蛯澤正雄議員の一般質問を終わります。